

営農情報（水稻）

令和4年8月発行

福岡大城農業協同組合
南筑後普及指導センター
久留米普及指導センター

1 生育概況

7月中旬現在、水稻の生育はおおむね順調です。
今後も、ほ場の状況をよく観察し、除草や施肥、防除等、適期作業に努めましょう。

2 水管理

（1）間断かん水

中干し後は、間断かん水を行います。なお、中干しが不十分なほ場や、葉色が濃く倒伏の恐れのあるほ場では、強めの間断かん水を行ってください。

※台風の接近等で強風の恐れがある場合は、深水にして稲体を守ります。台風通過後も数日は水分の蒸散が激しいため、湛水状態を継続します。

（2）花水

穂ばらみ期から穂揃期にかけては、イネが最も水分を必要とする時期なので、出穂の前後1週間は湛水します。

3 穂肥

分施肥系の場合は、以下を目安に穂肥を行います。1回目の穂肥は籾数の確保、2回目の穂肥は籾の充実に繋がります。

品種	出穂期目安	穂肥1回目		2回目	
		目安時期	施用量(kg/10a) NK7号	時期	施用量(kg/10a) NK7号
元気つくし	8/20頃	8/2頃 (出穂 18 日前頃)	15	1回目の7日後	10
ヒノヒカリ	8/27頃	8/9頃 (出穂 18 日前頃)	20	なし	—
ツクシホマレ	9/5頃	8/15頃 (出穂 21 日前頃)	25	1回目の7～10日後	20

4 病虫害対策

①カメムシ類対策

出穂14日前まで（8月上旬ごろまで）に水田周辺の除草を徹底し、カメムシの住み処を無くしましょう。ただし、イネが出穂してからの除草は、カメムシ類の水田への飛び込みを助長するので行わないでください。

②基本防除

秋に坪枯れを引き起こす「トビイロウンカ」は、中国大陸からジェット気流に乗って飛来します。紋枯病と合わせて、8月中旬ごろに基本防除を実施します。近隣の飛来状況を踏まえて、今年は8月7～15日を目安に防除してください。

品種	剤型	薬剤 (全品種とも粉・液いずれか)	希釈倍数 (10aあたり使用量)	適用 病虫害
元気つくし ヒノヒカリ ツクシホマレ	粉剤	アプロードモンカットスタークルF 粉剤DL	3～4kg	ウンカ類・紋枯病 カメムシ類
	液剤	アプロードロムダンモンカットエアー +スタークル顆粒水溶剤	750倍 2000倍	ウンカ類・紋枯病 コブノメガ・カメムシ類

注) 液剤を使用する際の散布水量は、10aあたり100リットルです。

※ アプロード剤に対するトビイロウンカ感受性が低下しているため、スタークル剤と混用して使用してください。

※ ウンカ類への効果を高めるため、防除作業は湛水状態で行います。

③出穂期防除

防除時期は、「元気つくし」：8/18～23頃、「ヒノヒカリ」8/25～30頃、「ツクシホマレ」：9/3～9/8頃です。

品 種	剤型	薬 剤 (全品種とも粉・液いずれか)	希釈倍数 (10aあたり使用量)	適用 病虫害
元気つくし ヒノヒカリ ツクシホマレ	粉剤	ブラシントレボン粉剤DL	4kg	いもち病 ウンカ類 カメムシ類
	液剤	ダブルカットフロアブル +トレボンEW	1000倍 1000倍	

注) 液剤を使用する際の散布水量は、10aあたり100リットルです。

※ ウンカ類への効果を高めるため、防除作業は湛水状態で行います。

農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう!